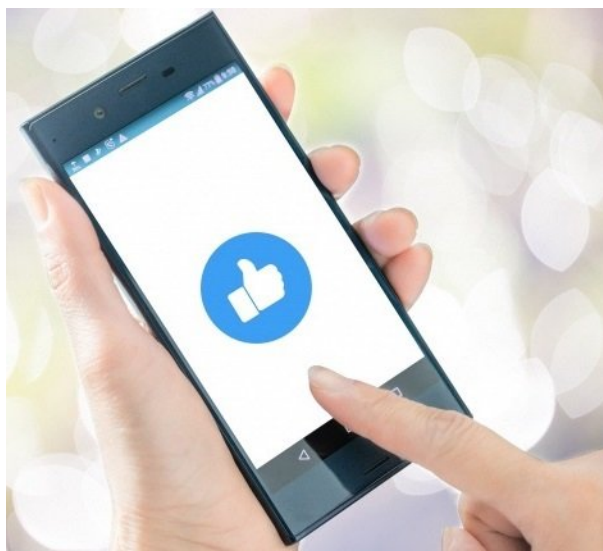


活動

どこにいてもアートを楽しめる仕組みづくり



新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、多くの美術館が休館を余儀なくされ、中断した展示や中止したイベントに代わるコンテンツを生み出す取組が幅広く行われました。こうしたなか、Web サイト上でデジタルコンテンツとして展開することにより、これまで以上に広いエリアの人々にも楽しんでもらえる取組が始まっています。

美術館へ来館できない状況を補うだけでなく、バーチャルな取組によりリアルな美術館への好奇心をさらに高めるなど相乗効果を生む取組が必要です。

リアルとバーチャルによりアートが常に身近な存在となり、暮らしのなかにアートを感じる時間が増えていきます。

収蔵コレクションや教育普及プログラムなど、美術館の有する資源をデジタルコンテンツとして活かし、いつでも、どこにいても、誰でもアートを楽しめる仕組みをつくります。SNS なども活用しながら発信方法を工夫して、美術館活動を支えるコミュニティをつくり、実物を観て、感動し、楽しむ来館へとつなげていきます。

具体的な取組例

- WEB サイト上での収蔵コレクションの鑑賞機会の提供。
- 自宅でアートに触れられるコンテンツの開発・公開（作品鑑賞ワークシート、工作体験プログラム等）。
- 講演会やギャラリートーク、教育普及プログラム等の映像の公開。
- デジタルコンテンツを活用した、SNS による美術館活動への参画促進。
（例：Twitter や Instagram などの SNS による、美術館活動を支えるコミュニティづくり）。



区民のアート活動への支援を充実



現在の創作室

新型コロナウイルスの感染拡大防止の視点から遠隔地への移動が制限されるなか、身近な地域への再認識が進んでいます。

区民等が気軽に訪れアートに触れる体験ができるよう、多彩なプログラムを提供します。また、幅広いジャンルの制作に対応できる創作室の機能充実や、区民ギャラリーの利便性を向上するなど、区民の文化芸術活動への支援を充実します。

具体的な取組例

- ・貸出施設の利便性を向上し、区民の創作活動を充実。
- ・創作室の機能を充実し、幅広いジャンルの制作に対応。
- ・アートに関する知識や技術を学ぶアート講座やスクールプログラムなど、多彩な教育普及プログラムの提供。
- ・地元商店街や区内の芸術系大学との連携によるイベントやワークショップなどの開催。
- ・サポーター養成プログラムなど、美術館の活動に参加しやすい仕組みづくり。
- ・SNSを活用した美術館活動への参画促進（再掲）。



現在の創作室



現在の区民ギャラリー